

(1) 教育活動の目標と方策

【 探究活動の推進 】

(目標) 解答へのアプローチより解法(考え方・知る方法)へのアプローチを実施し、探究のプロセス(課題の設定、情報の収集、整理・分析、解決策の検討、まとめ表現)を体験的に学べる機会を設定する。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①進路探究部の探究セクションと副担任の探究担当が中心となって、探究活動を推進する。</p> <p>②「立国LEADERプログラム」を構築して、全ての教員で論文指導を行うとともに、探究活動の成果発表の実施と、専門家による探究活動の価値付けを実現する。</p> <p>③1・2年で探究教養〈BUILD期〉、3年で探究専攻準備(探究計画作成、提出)〈CHALLENGE期①〉、4・5年で探究専攻〈CHALLENGE期②・CREATE期①〉、6年で自己探究(自己の在り方・生き方を考える、探究専攻の成果を進路に活用する)〈CREATE期②〉として、6年間の系統的な探究活動を行う。</p> <p>④探究活動の課題として、「社会探究課題」(ソーシャルチェンジ、困っている人を笑顔にする)、「理数探究課題」(大学研究室との連携で興味・関心のある分野の徹底追及)、「地域提案探究」(アントレプレナーシップに基づく地元企業への企画提案、地元企業との商品開発)の教科横断的な3分野を設定する。</p> <p>⑤「立国LEADERプログラム」におけるラーニング・コモンズの活用を通して、生徒の情報活用能力の向上を図る。</p>	<p>①探究セクション及び学年の探究担当が年間を見通した進行管理を行い、探究活動を推進した。今後は、担任と探究セクションとの共通理解を深める機会を設定して、探究活動を深化させる。</p> <p>②論文指導については、急遽、大学院生による論文添削を実施して、論文の質の向上を図った。次年度は、計画的な論文指導を行う。</p> <p>③今年度は、校内発表の機会を工夫して、探究活動を活性化することができた。次年度は、外部での発表活動をさらに推進して、探究活動の成果を進路に活用できるレベルに引き上げる。</p> <p>④探究活動が、生徒の興味・関心に即したものであるとして、教科横断的な3分野の設定は適切であった。特に、地域提案型は、地元企業と多くつながることができ、大きな成果を上げた。次年度も探究活動における地域企業との連携を継続する。</p> <p>⑤ラーニング・コモンズの活用により充実した探究活動が実践された。今後は、情報活用能力の向上についても、更に取り組む。</p>

【 理数教育の充実 】

(目標) 理数教育研究校として、理数に興味・関心をもつ生徒に対して、特色ある取組を実施して、優れた資質・能力をもつ生徒の発掘とその才能を伸ばす。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①本校6年間探究プログラム「立国LEADERプログラム」における「理数探究課題」推進する。</p> <p>②理科の授業における実験の一層の推進と実験内容の進化・深化を図る。</p> <p>③部活動「科学部」の充実を図る。(物理分野、化学分野、生物分野、天文分野、数学分野の導入)</p> <p>④「サイエンスラボ」の充実を図る。(星空観望会、地学分野における講義(東大との連携)、民間企業との連携、都の施策の最大限の活用)</p>	<p>①今年度、探究活動の一つとして、理数探究課題として分化したばかりであるが一定の成果が得られたので、今後も取組を推進する。</p> <p>②特別教室4部屋の整頓、不要物の廃棄、実験器具の更新を積極的に行い、研究を進める上での環境づくりを実現した。次年度も、理数研究校として計画的に整備する。</p> <p>③科学部として、数学分野の講演を実現、大学教授による専門的な指導を受ける機会を得た。今年、この分野で専門的な研究を行った生徒が現れ、目覚ましい活躍となっている。次年度も継続して研究を支援する。</p> <p>④星空観望会を3回実施、東京科学大学での探究活動の発表を実現した。都の探究TIPS事業を活用して、探究活動を深化させる。</p>

【 国際教育の特色化 】

(目標) GE-NET20「対話・理解」グループ及び海外学校間国際交流推進校の指定校として、国際交流、海外ボランティア研修などを実施し、「送り出し」、「受け入れ」、「共有」プログラムをより一層充実させ、グローバル人材の育成、国際社会のリーダーとなる素地を養う。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①様々なグローバル人材育成のための学校行事の充実を図る。</p> <p>②Tokyo Global Gateway (1年)、英語合宿 (2年)、英語劇 (3年文化祭)、イングリッシュ・サマーセミナーを通して、コミュニケーションツールとしての英語力を高める。</p> <p>③「送出し」 オーストラリア・スタディツアー (5年)、シンガポール国立大学リーダー研修 (3・4年希望者)、カンボジア・ボランティア巡検 (希望者)、次世代リーダー育成道場 (3年生以上希望者) の更なる充実を検討する。</p> <p>④「受入れ」 東京体験スクールの応募や、姉妹校やフレンドシップ校からの短期留学生の受入れ (パリ、カンボジア) を充実する。</p> <p>⑤「共有」 海外帰国・在京外国人生徒で入学した生徒に活躍の場を提供 (入試で行ったプレゼンテーションの公開等) するとともに、「国際交流セミナー」、「グローバル・アカデミー」(PTAとの共催によるグローバルリーダーの講演)、留学生との交流等を充実する。</p>	<p>①グローバル人材の育成のために、国際教育につながる、海外からの視察訪問などは、積極的に受け入れることに努めた。次年度も、GE-NET20として、都の施策を最大限に活用して、学校行事の充実を図る。</p> <p>②様々な学校行事を通じて、コミュニケーションツールとしての英語力を、全ての学年で高めることができた。イングリッシュ・セミナー2は、応募者が少なく実施できなかったが、次年度は、十分な周知を行い、実現できるように取り組む。</p> <p>③オーストラリア・スタディツアーが航空機欠航のため中止となったので、代替として、教育庁と協議の上、3月にグアムに行き先を変更して実施することができた。シンガポール及びカンボジアについては充実した研修となった。次世代リーダーには、校内での面談指導などを行い、15人が選考に合格した。旅費高騰の影響や、航空機欠航となった時の対応、研修期間の設定などに注意しながら実施する。</p> <p>④シンガポール修学旅行生、ニュージーランドからの東京体験スクールなど、短期留学生を受け入れた。来年度も、積極的に受入れを行い、国際教育を推進する。</p> <p>⑤海外大学進学講座 (基礎・体験) の実施や、国際交流セミナー、グローバル・アカデミーとして、インドでのビジネス体験の講演、トルコの高校とのオンライン交流などを実施した。今年度は急遽実施することが多かったため、しっかりと事前準備に取り組んで、万全の態勢で臨めるようにする。</p>

【 生成AI研究指定校 (後期課程) の実践 】

(目標) 生成AIの教育活動での活用に関する先進的な取組を進める。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①後期課程における、AIリテラシーの指導法や、授業等における効果的な活用方法を検証し、他の都立高校に還元する。</p> <p>②生成AIの活用推進、AIリテラシーや効果的な活用方法、留意点等の具体的な方策について、教員研修を実施して理解を深める。</p>	<p>①授業におけるAIの活用に取り組み、英語、公民、化学などで検証授業を行った。</p> <p>②生成AIの活用に当たり、ICTリーダーを中心に個別研修を実施できた。次年度は、「AIを活用した英語教育の充実事業」実施校として、更に研鑽を深める。</p>

【 学校行事 (三祭) の充実 】

(目標) 基本的な生活習慣を確立するとともに、生徒が規範意識と道徳心を育み、リーダーとしての素養を育成するとともに活動を工夫する。また、生徒の努力や成果を評価し自己肯定感の向上を図る。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①「立国LEADERプログラム」と関連付けて、三祭のそれぞれの内容の充実を図る。</p> <p>②三祭を通じて「チーム立国」の一員としての達成感と一体感を醸成する。</p>	<p>①紫翠祭において、1・2学年は、探究活動を発表することができた。</p> <p>②三祭をとおして、生徒が主体的に運営を行い異学年との交流を深めることができた。3学年は、英語劇を教室で実施することになり、生徒一人一人が達成感を得ることができた。来年度は、三祭の運営の改善を更に図り、リーダーとしての素養を涵養する。</p>

【 進路指導の充実 】

(目標) 進路探究部を中心に、データを活用した個別最適な学びの進路指導と立国イズム (塾に任せない、最後まで諦めない、高みを目指す、チームで実現する) の指導により、学年・教科が有機的に機能する組織体制を構築し、進路指導の充実を図る。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①進路選択の複線化（国内大学、海外大学）や、大学入試受験方法の多様化（一般受験、総合型選抜、学校推薦型選抜）などに対して、柔軟に対応する。</p> <p>②模試分析（大学入学共通テスト分析を含む）、ケーススタディの悉皆研修を継続し、教科会、教科主任会と連動させて、実際の授業における指導に繋げる。</p> <p>③自習室の活用やチューターによる指導、SSC（Self-Study Club）など、自学自習の習慣化を図る取組を実践する。</p> <p>④2年生で実施する「職業体験」（インターンシップ）を「立国LEADERプログラム」と接続して実施し、アントレプレナーシップ入門、課題研究（探究活動に繋がる発展的調べ学習の実施）につなげる。</p> <p>⑤進路指導の共通様式による自己分析と、スタディサプリを活用した焦点化による個別最適な学びに取り組む。</p> <p>⑥保護者会や三者面談等において、データを活用した根拠に基づく内容となるように工夫を行い、保護者から信頼される進路指導に取り組む。</p>	<p>①生徒・保護者向けに、進路日より発行や進路講演会を行い、進路指導情報を、適時、発信することができた。また、教員向けの予備校主催の研究会参加を呼び掛け、大学入試動向と近況について、自己研鑽する機会を提供することができた。</p> <p>②全員参加の模試分析会を実施し、教科指導における方策を検討するなど、組織的な進路指導の充実を図った。また、3学年から6学年までの進路担当者と進路探究部の教員で、進路指導連絡会を開催することができた。</p> <p>③自習室利用は6学年のみとしているが、その他の学年の自習室も指定することができ、集団で学習する環境を構築した。4学年は、チューターと積極的に相談する機会を設定することで、個々の生徒の状況に合わせたアドバイスを実施した。次年度は、附属小学校中学年においても、チューターを活用する。さらに、SSC当番を、学校全体で対応する。</p> <p>④アントレプレナー教育として、立川の商業施設や小売店などの様々な企業からの課題を解決する探究活動を実現し、商品化されるものもあった。</p> <p>⑤スタディサプリを活用した個別最適な学びを推進したおかげで、学年によっては、学力向上につなげることができた。今後も、積極的な活用を促し、取り組む。</p> <p>⑥予備校などの模試データを活用して二者面談や三者面談を行い、具体的な指導・助言をすることができた。</p>

【「よりよい6年間」「攻める12年間」の教育課程編成の検討】

（目標）指導と評価の一体化の推進、生徒の成績や学習成果等のデータの確実な点検体制を確立する。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①中等教育学校の6年間を見通した「立国LEADERプログラム」における意図的・計画的な教育課程を充実させるとともに、4年後の令和10年に、附属小学校からの進学してくる生徒と、中等教育学校から入学してくる生徒との混在期における「立国LEADERプログラム」の検討を始める。</p> <p>②附属小学校との一体的な運営による適性検査の確実な実施を行う。</p>	<p>①中等教育学校と附属小学校の「立国LEADERプログラム」は、別々に実践できているが、早急に、12年間を見通した探究プログラムを検討する。</p> <p>②小学校入学決定業務は、休日に設定されているので、教職員のサービス管理及び健康状態に留意しながら、附属小学校の先生方が関わることで、ミスなく適切な業務遂行ができた。</p>

【中等教育学校の広報活動の強化】

（目標）積極的に保護者・地域・社会に情報発信を行うとともに、募集対策に組織的に取り組む。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
<p>①「立国EXPO2024」（小学校3～5年生への説明会、小学校6年生へのきめ細かい個別相談）を新たに実施して、広報活動を拡充する。</p> <p>②学校説明会において、生徒が説明役などで登壇することで、保護者や小学生に対する効果的な広報を展開する。また、外部の説明会にも積極的に参加し、広報活動を強化する。</p> <p>③学校の情報発信の場であるウェブサイト随時更新し、知りたい情報を見付けられるように工夫する。また、さくら連絡網を活用し、保護者には、随時、学校の様子を伝えるとともに、意見聴取の場面を設定することで、開かれた学校となるよう推進する。</p>	<p>①附属小学校にある施設を効率よく活用しつつ、参加する保護者から事前質問を受け、ニーズに応じたテーマを設定した説明会を実施できた。海外からオンラインで参加できる個別相談会も行い、受検者数増につながったと考えられる。</p> <p>②在校生座談会や、生徒が立国の特色を英語で説明するなど、効果的な広報活動を実現できた。外部の説明会にも参加した。次年度は、小学生中学年をターゲットとした説明会を実現する。</p> <p>③学校行事の様子や、前期課程の給食の献立と写真を随時更新することで、情報発信を実現できた。保護者向けのさくら連絡網では、アンケート機能を用いて、常時、意見聴取できるようにした。来年度は、より丁寧な保護者向けの説明・情報発信となるようにする。</p>

【部活動の地域連携化の促進と生徒の体力向上及び健康の保持増進】

(目標) 生徒が安全安心な学校生活を送り、生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
①教員の負担の軽減を図りつつ、部活動の指導を充実していくため、地域の幅広い協力を得て、部活動指導員や外部指導者などの外部の指導者を含めた指導体制を構築する。 ②「都立高校等における産婦人科医を活用したユースヘルスケア事業」など、生徒の発達段階を踏まえ、様々な教科等を横断的・効果的に関連させた取組等を推進し、生徒が自ら健康的な生活を送ろうとすることができるようにする。	①地域クラブに移行することができ、教員の負担軽減を図ることができて、教員は教材研究や授業準備、生徒・保護者対応に注力できる環境を構築できた。顧問教員と外部指導員や部活動指導員との連絡調整を整理して、部活動指導の体制を、来年度も継続する。 ②健康相談員による後期生徒・保護者向け(7月)、3・5学年対象(10月)の講演会を実施し、参加した生徒や保護者から好評であった。来年度も、健康相談事業を実現して、生徒の自己理解・他者理解などに貢献する。

【附属小学校と中等教育学校の協働】

(目標) 附属小学校との連携行事を効果的・効率的に推進する。

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
①中等生による読み聞かせ等、附属小学校の児童と中等教育学校の生徒との交流活動の充実を図る。 ②中等教育学校生徒会によるレクリエーションの継続と充実、また、附属小学校の児童を対象とした部活動の公演などを実施する。	①国際交流・広報委員による読み聞かせを延べ6日間実施したり、体育祭での附属小学生の発表、文化祭で相互鑑賞したりするなど、交流活動を実現した。 ②中等生徒会が小学生の児童と、昼休みに、一緒に遊んだりする機会を実現、また、中等合唱部が小学校のクリスマス会で公演した。次年度も、交流の機会を設ける。

(2) 学校経営の目標と方策

今年度の取組目標とその方策	取組目標等に関する自己評価 翌年度以降の課題とそれに対する改善策
○「チーム立国」として児童・生徒の自己肯定感を大幅に向上させる取組を充実する。 ○ 2-2-2のフェーズ(1・2年: BUILD期、3・4年: CHALLENGE期、5・6年: CREATE)を意識して取り組む。 ○ 都の施策を最大限に活用し、生徒に様々なチャンスを提供する。 ○ 附属小学校と中等教育学校との一体的運営と、生徒と児童との交流をより一層推進する。 ①全教職員が、中等教育学校及び附属小学校の一体的な運営に対する意識を高め共有することで、校内組織体制の強化と改革を推進する。 ②管理運営規定に基づく組織的な学校運営を行い、企画調整会議を学校経営の中核とした組織的学校経営を推進し、校内分掌内の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営を図る。 ③校内研修や啓発活動を通して、教育公務員としての高い使命感と倫理観をもち、服務規律を順守することを徹底し、服務事故の根絶を達成する。また、東京都こども基本条例や人権教育に関する法令等及び人権課題についての正しい理解と認識を深め、立国ルールである生徒の呼称と、個人情報の取扱、複数により複数回点検を順守する。 ④ICT機器を活用して、企画調整会議等の会議をペーパーレス化し、業務の効率化を図る。また、会議や業務の効率化を図り、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。	○生徒の自立的な活動をあらゆる場面で後押しすることを教職員が意識して生徒指導に当たっている。2学期からは、「学校の居心地向上検証プログラム」に着手して、生徒のウェルビーイングを追求する取組を始めた。来年度も、この取組を継続し、生徒の自己肯定感を向上させる。 ○都の施策に積極的に参加する。来年度は、GE-NET20と、Tokyo-IBLハイスクール、AIを活用した英語教育の充実事業」実施校、理数研究校の指定を受けた。次年度は、これらの指定事業を本校の教育の特色と位置付けて取り組む。 ①②企画調整会議や打ち合わせにおいて、中等教育学校と附属小学校の報告事項や決定事項を共有するとともに、全教職員に周知を徹底することで、一体的な運営を推進している。 ③年3回の研修以外にも、適宜、サービスニュースやサービス事故事例の共有、啓発ポスターや職員室の電子掲示板を用いて、サービス事故防止に取り組んでいる。次年度、個人情報の取扱については、徹底した確認を行い、ミス防止に努める。 ④企画調整会議のペーパーレス化を推進して、業務の効率化を実現できた。さらなる業務効率化を成し遂げるように、業務の見直しを図る。教職員のライフ・ワーク・バランスは、超過勤務時間の縮減のため、退庁の声掛けや業務改善に取り組む。 ⑤施設・設備において、不要な物品を今年度、おおむね廃棄することができた。来年度から3か年かけて什

<p>⑤施設・設備等を計画的に整備し、良好な教育環境のための予算編成にむくことで、充実した教育活動を実現し、働きやすい職場環境を創出する。</p> <p>⑥経営企画室の学校経営参画を促進し、効率的かつ効果的な学校経営を行う。</p>	<p>器の更新を行う。</p> <p>⑥経営企画室には、適宜、声掛けを行い、学校経営計画の具現化を予算面で達成するように推進している。経営企画室の安定的な運営を心掛ける。</p>
--	---

(3) 数値目標

数値目標	今年度結果
<p>①学校運営・組織</p> <p>★学校評価：生徒・保護者の満足度：85%</p> <p>○服務事故の発生件数：0件</p> <p>②学習指導</p> <p>○自宅学習時間 1・2年生：120分 3年生：150分 4・5年生：180分 6年生：240分</p> <p>○教員相互の授業観察：各学期に1回以上</p> <p>③生徒の挑戦促進</p> <p>★コンテスト等への参加実績：5件</p> <p>○都教育委員会の児童・生徒表彰への推薦：5件</p> <p>④進路指導</p> <p>○進路だより発行：7回以上</p> <p>○長期休業日中の講習 夏期講習：全学年実施 120講座 受講者延べ2000人 参加率85% 冬期講習：全学年実施 40講座 受講者延べ600人 参加率85% 春期講習：全学年実施 40講座 受講者延べ200人 参加率85%</p> <p>○大学入学共通テスト受験率：100%</p> <p>○大学入学共通テスト6教科8科目型受験：100人</p> <p>★現役合格 難関国立大学(東大 京大 一橋大 東科大 国公立医)合格：10人 国公立大学合格：50人 難関私立大学(早大 慶大 上智大 理科大)合格：70人</p> <p>⑤生活指導</p> <p>○学校行事への生徒・保護者の満足度：85%以上</p> <p>○附属小学校との連携による行事：5件</p> <p>○規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組：3件</p> <p>⑥安全教育・健康教育</p> <p>○前期避難訓練：11回、後期避難訓練：4回</p> <p>○地域や関係機関と連携した防災教育：1回</p> <p>⑦生徒募集・広報</p> <p>★説明会・授業公開参加者数：3000人</p> <p>○Webサイト更新：150回以上</p> <p>○広報誌 Tach i koku Times 発行：10回</p> <p>○一般枠応募倍率：4.0倍</p> <p>⑧探究的な学び</p> <p>○ラーニング・コモンズでの発表活動：5回</p> <p>○関係機関・大学等との連携事業数：5件</p> <p>★コンテスト等への参加実績：5件 ※再掲</p> <p>⑨国際教育</p> <p>○国際教育の生徒・保護者の満足度：85%</p> <p>○英検取得者数 1級：5名、準1級：30名 2級・準2級：100名</p> <p>⑩ライフ・ワーク・バランス</p> <p>○夏季休暇取得率：100%</p> <p>○年次有給休暇取得：年間15日</p> <p>★超過勤務時間一月当たり45時間以下の教員割合：8割</p> <p>⑪経営企画室との連携</p> <p>○管理運営費と自律経営推進予算執行率：90%、セクター執行率：70%</p>	<p>①学校運営・組織</p> <p>★学校評価 「本校に入学してよかった」 生徒84%、保護者92%</p> <p>○服務事故 なし</p> <p>②学習指導</p> <p>○自宅学習時間 1・2年生：66分 3年生：78分 4・5年生：198分 6年生：225分</p> <p>○教員相互の授業観察90%</p> <p>③生徒の挑戦促進</p> <p>★コンテスト等への参加6件</p> <p>④進路指導</p> <p>○進路だより発行：7回</p> <p>○長期休業中の講習 夏期150講座4267人85.7% 冬期42講座577人94.5% 春期35講座1461人96.3%</p> <p>○大学入学共通テスト受験率97.1%</p> <p>○大学入学共通テスト6-8型91人</p> <p>★現役合格 難関国立大学合格：13人 国公立大学合格：39人 難関私立大学合格：66人</p> <p>⑤生活指導</p> <p>○学校行事の満足度 生徒76%、保護者91%</p> <p>○附属小学校との連携行事：7件</p> <p>○規範意識醸成などの取組：4件</p> <p>⑥安全教育・健康教育</p> <p>○避難訓練 前期：11回 後期：4回</p> <p>○地域と連携した防災教育：1回</p> <p>⑦生徒募集・広報</p> <p>★説明会・授業公開参加者数：6000人</p> <p>○Webサイト更新：328回</p> <p>○広報誌発行：12回</p> <p>○一般枠応募倍率：3.32倍</p> <p>⑧探究的な学び</p> <p>○ラーニング・コモンズでの発表：15回</p> <p>○関係機関・大学等との連携：3件</p> <p>★コンテスト等への参加：6件</p> <p>⑨国際教育</p> <p>○国際教育の満足度 生徒81%、保護者81%</p> <p>○英検取得者数 1級：9名、準1級：80名 2級・準2級：384名</p> <p>⑩ライフ・ワーク・バランス</p> <p>○夏季休暇取得率：94%</p> <p>○年休年間15日取得：59%</p> <p>★超過勤務一月45時間以下：81%</p> <p>⑪経営企画室との連携</p> <p>○自律：98.8%、セクター：51.8%</p>